

経営学学位プログラム(博士前期課程)
Master's Program in Business Administration

授与する学位の名称	修士(経営学) [Master of Business Administration]	
人材養成目的	ビジネスの変革、技術の複雑化に伴う新たな経営課題に対応可能な高度専門職業人の養成を目的とする。	
養成する人材像	修士(経営学)の学位に相応しい専門知識、および論理的に深く思考する能力やその内容を論理的に構成するための能力を有する人材を育成する。具体的には、ビジネス上の問題を発見する能力、研究とビジネスを融合する能力を持ち、自ら積極的に解を探索し専門領域を超えて幅広い関心を持つことができる人材、ビジネスに根差した問題意識はもちろんのこと、学術的なアプローチに対する関心や知識を有し、かつそれらをビジネス上の課題に基づく研究テーマに適用する能力を有する人材を育成する。	
修了後の進路	社会人大学院であるため、民間企業だけでなく官公庁や教育機関など学生のバックグラウンドは幅広く、さまざまな業種の企業からさまざまな職種の学生が集まることが想定される。在学中あるいは修了後に転職するケースもあり、起業や大学教員に転ずる学生など幅広い進路が考えられる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	経営システム科学研究・Ⅰ-Ⅰ、同Ⅰ-Ⅱ、同Ⅰ-Ⅲ、同Ⅱ-Ⅰ、同Ⅱ-Ⅱ、同Ⅱ-Ⅲ、修士論文作成、研究計画発表・中間発表・予備審査・最終発表、学会発表
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	経営システム科学研究・Ⅰ-Ⅰ、同Ⅰ-Ⅱ、同Ⅰ-Ⅲ、同Ⅱ-Ⅰ、同Ⅱ-Ⅱ、同Ⅱ-Ⅲ、専門科目(ビジネスゲーム等)、研究計画発表・中間発表・予備審査・最終発表、学会発表等
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かり易く伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	経営システム科学研究・Ⅰ-Ⅰ、同Ⅰ-Ⅱ、同Ⅰ-Ⅲ、同Ⅱ-Ⅰ、同Ⅱ-Ⅱ、同Ⅱ-Ⅲ、専門科目(ビジネスゲーム等)、研究計画発表・中間発表・予備審査・最終発表、学会発表等
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	経営システム科学研究・Ⅰ-Ⅰ、同Ⅰ-Ⅱ、同Ⅰ-Ⅲ、同Ⅱ-Ⅰ、同Ⅱ-Ⅱ、同Ⅱ-Ⅲ、専門科目(ビジネスゲーム等)、チームでのコンテスト参加、学会での質問、セミナーでの質問等
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、専門科目(経営戦略論、財務会計、オペレーションズ・リサーチ等)、研究指導における外国語の論文・書籍の輪読等
6. 経営に関する多角的思考能力:職業生活に関して深い専門知識を持ち、戦略、組織、財務、マーケティングなどの観点から多角的に思考する能力	① 幅広い経営学・経営科学の知識の獲得がなされたか ② 専門分野(業種・職種等を含む)以外における経営課題等を理解し議論することができるか	トップレクチャーⅠ、同Ⅱ、専門科目(経営戦略論、経営組織論、消費者行動、財務会計等)、学会での質問、セミナーでの質問等
7. 経営に関する問題発見能力:職業生活の現場から自ら問題を発見し明確化する能力	① 経営上の課題の所在を、獲得した知識をもとに、自ら同定することができるか ② 同定した課題の本質を明確化し自らの言葉で語り他と共有することができるか	専門科目(技術経営論、インベストメントサイエンス、計量経済学、インターネットとビジネス情報分析等)、修士論文作成、コンテスト参加等
8. 経営に関する問題解決能力:知識や経験を体系化し、現代社会における課題を新たな視点から再構築できる能力	① 定量的あるいは定性的な分析手法の理論を理解し適切に適用できるか ② 得られた結果を解釈し、自らの言葉で表現し、他と議論することができるか	専門科目(共分散構造分析、マーケティングサイエンス、人工知能とビジネス情報分析、ファイナンス工学等)、修士論文作成、コンテスト参加等

9. 経営に関する知の創造能力: 職業に関する新たな知識を創造する能力	① 獲得した幅広い知識をもとに、経営上の新たな仮説や課題を設定できるか	専門科目(オペレーションズ・リサーチ、最適化モデル、テキストマイニング、ロジスティクスとサプライチェーン等)、起業等
10. 経営に関する現場実践能力: 創造した知識を、職業生活の現場で実践する能力	① 獲得した幅広い知識を、理論と実践の間に橋渡しすることができるか ② 獲得した知識の適用限界等を把握しているか	専門科目(データ解析Ⅰ、同Ⅱ、マーケティングリサーチ、ビジネスゲーム、ビジネスと情報等)、特許の取得、起業等
学位論文に係る評価の基準		
<p>評価項目を下記の7つとし、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営の現場における重要な問題の発見あるいは、学術的に未解決の問題の発見 2. 基本的な先行研究の把握と、研究課題の位置づけの提示 3. 研究目的および方法の提示 4. 構成・論旨展開の適切さ 5. 学術的貢献および実務的貢献への言及 6. 研究倫理の遵守 7. 文献の適切な引用および規定に沿った体裁 <p>主査1名および副査2名以上で構成される学位論文審査委員会が、上記の評価項目を内容として含む学位申請論文を、学位論文としての水準の観点から、論文審査ならびに最終試験において評価し、可否の判定を行う。</p>		
カリキュラム・ポリシー		
<p>高度専門職業人として求められる、経営学、数理科学、情報科学の3領域における研究力・専門知識・倫理観を修得させるとともに、研究群共通科目を中心に企業法学における基礎的素養および汎用的知識を加味した教育を行う。</p> <p>講義科目は経営学において一般的にコア領域とされる戦略・組織、マーケティング、会計、ファイナンスを中心に据えつつ、現代の経営を考える上で重要となる計量分析関連領域や情報技術関連領域も含めて体系化されている。研究面では、各学期に配置されている研究科目や各ステージ発表を通して、課題の明確化、専門的な分析、結果の総括、最終的にはビジネスへのフィードバック検討と段階的に進める。また、複数教員による研究指導体制により、問題発見力、論理構成力、新たな知の創造力を養い、多角的に思考する能力を身につける。</p>		
教育課程の編成方針	<p>学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目を履修することを強く推奨する。</p> <p>経営学において一般的にコア領域とされる経営戦略・経営組織、マーケティング、会計、ファイナンスを中心に備えつつ、数理、情報関連領域の科目を配置するとともに、研究を介して、ディプロマ・ポリシーに示した能力を育成する。研究面では、研究計画発表、概要発表、中間発表、予備審査、最終試験のステージを用意することで、計画的な研究活動を支援する。複数教員による指導体制を通して、多角的な思考能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術院共通専門基盤科目「トップレクチャーⅠ・Ⅱ」等により、経営に関する多角的思考能力を身につける。 ・研究群共通科目「経営基礎」、「会計基礎」等により経営に関する問題発見能力を身につける。 ・専門科目「消費者行動」等により経営に関する問題解決能力を身につける。 ・専門科目「オペレーションズ・リサーチ」等により経営に関する知の創造能力を身につける。 ・専門科目「マーケティングリサーチ」等により経営に関する現場実践能力を身につける。 ・研究科目「経営システム科学研究」等により経営に関する多角的思考能力、経営に関する問題発見能力、経営に関する問題解決能力、経営に関する知の創造能力、経営に関する現場実践能力を身につける。 	
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学分野の基礎教育を行う「基礎科目」、専門的内容を講義する「専門科目」、学術院の共通の基礎的リテラシーを講義する「学術院共通専門基盤科目」および研究群の共通の基礎的リテラシーを講義する「研究群共通科目」から授業科目を履修する。 ・研究においては「研究科目」の履修を通して、主指導教員を中心に指導が行われる。2年次からは、他領域も含めた2名の副指導教員が指導に加わり、多角的な視点から支援する。 ・修士論文については、概要(研究計画)発表、中間発表、予備審査を経て論文審査委員会が構成され、論文審査および最終発表と最終試験が実施される。 	
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画、概要発表、中間発表、ドラフト、予備審査、最終試験のそれぞれで達成すべき要件を明確化し、研究発表会・審査会・最終試験でのプレゼンテーション並びに質疑応答を通して、その達成度を評価する。 ・発表会においては主指導教員と副指導教員が中心となり、教員全員で評価する。 ・予備審査会においては主指導教員と副指導教員を中心とする予備審査担当教員が評価を行う。 ・最終試験においては主査と副査からなる論文審査委員会が評価を行い、可否を判定する。 	

アドミッション・ポリシー

<p>求める人材</p>	<p>社会人大学院であるためビジネスに根差した問題意識を持つことはもちろんのこと、研究として行う以上は学術的なアプローチに対する関心や知識も重要になる。また、研究を計画し遂行する過程では、自ら文献等調査の上、考察し解を導く積極的な姿勢が求められる。年齢も経歴も異なる多様な学生が集まるため、担当業務や専門領域を超えて幅広い関心を持つことが大切である。</p>
<p>入学者選抜方針</p>	<p>以下を評価し、総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書により:問題意識、研究のアプローチ、専門的知識、研究の有用性・実現可能性および独創性、文章表現能力 ・小論文試験により:ビジネスや社会の諸問題に対する関心の広さと理解の深さ、論理的思考能力、文章表現能力 ・口述試験により:研究計画書の理解度、専門的知識、学習や研究への意欲、考えを表現する能力

